



# 日本女医会誌

復刊第 183 号  
2005 年 7 月 25 日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言

### ひとりでも多くの方に 入会してほしい

副会長 鹿田儀子

緑陰の慕わしいこの頃です。

皆様には、お健やかにご活躍のことと存じます。

月日の過ぎるのは本当に早く、昨年7月には国際女医会議で、暑さも忘れる日々であった事を思い出しております。

今年の総会では女医会がより良く発展するための新しい試みとして、総会の前日にワークショップの機会を設け、多くの会員のご意見を伺うことが出来ました。諸先輩方の貴重なご意見、また、若い会員の意義あるご意見、オブザーバーで参加して頂いた医学生のホットなご意見を伺う事が出来ました。医師として、家庭人として多忙な毎日ですが、百余年

の歴史ある、そして諸先輩の残して下さった足跡をしっかりと踏みしめて、少しでも前進する様、今こそ力を合わせて行くべき時だと思います。

最近、未成年の暗いニュースを聞くたびに、次世代を担う子ども達が、家庭はもとより、学校・社会のより良い環境で成長出来るような支援の一端を女医会でも担う事が出来るような活動を今まで以上に勧めていかなければならないと感じています。その為にも1人でも多くの方に会員になって欲しいと願っています。

第50回総会は「愛・地球博」が開催されている名古屋でしたので、会場をはじめ宿泊に関しても非常に難しい状態でした。そのような中、愛知支部中野慧子支部長を初め、会員の皆様のお陰で無事終わる事が出来ました事を心より感謝し、お礼申し上げます。

これからも会員の皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 日本女医会誌 (第183号) もくじ

巻頭言 ..... 鹿田儀子 /1

### 特集 ● 第 50 回日本女医会定時総会

概略 ..... 山崎康子 /2

会長挨拶 ..... 橋本葉子 /2

#### 各賞と研究助成授与

吉岡弥生賞を受賞して ..... 高原照美 /4

吉岡弥生賞受賞の重み ..... 津田喬子 /5

吉岡弥生賞を受賞して ..... 野澤良美 /6

学術研究助成受賞に寄せて ..... 平井みさ子 /6

第 50 回定時総会を開催して ..... 細川美智子 /7

記念講演「日本人の心」を拝聴して ..... 有吉允子 /8

大先輩 奈倉早苗先生 ..... 中野慧子 /8

#### オプションツアー記

名古屋の伝統産業観光コース ..... 門田正枝 /10

愛・地球博ツアー ..... 稲生 襄 /10

総会に出席して ..... 渡邊智子 /11

ワークショップ「日本女医会の現状より未来を考える」 ..... 加藤笠子 /12

役員任期に関する定款改正 ..... 鹿田儀子 /13

第 8 回国際女医会西太平洋地域会議のご案内 ..... 内潟安子 /9

「国立女性教育会館研究紀要」論文募集のお知らせ ..... /9

「『病児保育』を考える」にご参加ください!! ..... 池谷紀代子 /12

平成 16 年度学術講演会「開催して」 ..... 斎藤加代子 /15

女性のメンタルヘルスと女性外来 ..... 加茂登志子 /15

宮城支部市民公開講演会報告 ..... 安藤由紀子 /17

講演要旨 ..... 花田勝美 /17

NPO イーजेイネットのご紹介 ..... 藤巻わかえ /18

#### 書評

『思春期やせ症の診断と治療ガイド』 ..... 橋本葉子 /19

『女医さんたちのウエディング』 ..... 山崎康子 /19

私の大学「産業医科大学」 ..... 小畑泰子 /20

故小野春生先生へ ..... Margaret Maxwell /20

定時総会議事録 ..... /22

定時評議員会議事録 ..... /22

理事会議事録 (2 月、3 月、4 月) ..... /23

会員動静 ..... /25

各賞の推せん・助成のご案内 ..... /26

編集後記 ..... /26

特集

# 第50回 日本女医会定時総会

.....2005.5.21. ウェスティンナゴヤキャッスル  
(愛知県、名古屋市)

社団法人日本女医会総会に際し、会員数 1,878 名、出席者 124 名、記名委任数 520 名、白紙委任数 216 名。以上のように定款で定められた定員数 376 名に達したので、総会が成立する旨、角田理事より報告がなされ、開会が宣言されました。会長挨拶に続き、平成 16 年度の物故者に黙祷が捧げられました。総会報告は 1. 会務および事業報告 (鹿田副会長)、2. 平成 16 年度特別会計報告 (森川理事)、3. ナショナルコーディネーター報告 (内潟理事) の順になされ、原案通りに承認されました。次に会長より平敷理事が次期国際女医会・会長に選出されたとの報告がなされました。

第 1 号議案「平成 16 年度一般会計収支計算書案および剰余金処分案」は可決され、会計監査の結果の報告、承認がなされました。第 2 号議案として庶務部より「会員増加推進」、「吉岡弥生賞の募集」、「ブロック別懇談会の開催」に続き学術部・事業部・渉外部・広報部・子育て委員会などの計画案が原案通り可決され、第 3 号議案「平成 17 年度一般会計



収支予算案」が可決。第 4 号議案「役員任期および選挙方法」、第 5 号議案「次期及び次々期開催地」は東京・神奈川県で承認 (第 1 号議案・濱田理事、第 2 号議案・加藤副会長、第 3 号議案・船越理事、第 4 号議案・鹿田副会長、第 5 号議案・橋本会長)。

表彰は吉岡弥生賞として高原照美会員、津田喬子会員、野澤良美会員が、学術研究助成として平井みさ子会員が受賞されました。

以上、第 50 回総会の議案は全て承認可決され、午後 3 時 5 分、石原副会長により閉会の辞が述べられました。

折しも「愛・地球博」として 35 年振りに愛知県で開催された万博と重なり、日本は無論、世界各地からも観光客が多数参集されるこの時期、会場の確保や開催の準備・プログラムの組み方など、愛知女医会会員の並々ならぬご努力に心から感謝を捧げ、総会の概略とさせていただきます。

(広報部 山崎康子)

## 会長挨拶

### 女医会の存在をアピールし、女性ならではの活動を

会長 橋本葉子

皆様こんにちは。今日は、非常に天候に恵まれて、日頃の皆様の行いが良いからだと思って喜んでおります。

本日は、第 50 回の日本女医会総会でございます。いろいろご審議いただくことがございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

21 世紀日本で最初の万博「愛・地球博」の開催など、現在日本一活力のある名古屋で、愛知支部の皆様のご尽力により、第 50 回日本女医会定時総会が開催できることになりました。

愛知支部は、会員数が東京に次いで第 2 位 (6.6%) でございます。特別講演をはじめ、昨晚のワークショップ、前夜祭、本日の懇親会のご準備など、支部長の中野先生を先頭に支部の皆様が大奮闘してく

ださいました。最初に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、皆様ご承知のことですが、社団法人取得後の日本女医会の目的は、①女医相互の研鑽、親睦、及び地位の向上、②福祉の増進並びに地域医療などの社会活動、③国際交流と親善、に大別されております、そのための事業として種々のことを行っておりますが、役員会は 2002 年の日本女医会創立 100 周年記念や 2004 年の第 26 回国際女医会議を成功させることで、精神的に一時、燃え尽き症候群のようになりました。

しかし、いつまでも安閑としてはおられません。日本女医会の昨年度の事業及び今年度の計画など、順不同ですけれども、簡単にご紹介いたします。細かいことは後でご審議いただきます。

1) 吉岡弥生賞、荻野吟子賞の授与。学術研究助成、公開講座の助成などはずっと行っておりますが、今年度は吉岡弥生賞だけの推薦がございまして、荻野吟子賞はございませんでした。それから、学術研究助

成もわずかお1人だけの応募でした。非常に残念に思います。もっと若い方たちがふるって学術研究助成に応募していただきたいと考えております。

2) 数年前に医師の環境問題調査委員会を作りました。日本女医学会学術部の理事と、理事以外の会員で小委員会を作りまして、日本女医学会の自主事業として医師の環境問題の調査を行っております。女性医師の医学部職位の現状調査、学会活動の現状調査などをいたしました。学会活動に関しましては2002年に『医学教育』という雑誌に発表いたしました。昨年は、卒後10～15年医師の労働環境と健康に関する調査を行いました。これは、昨年の国際女医学会で発表しております(要約は日本女医学会誌182号[4月25日発行]に掲載)。

3) 子育て支援小委員会を作りました。これも女医学会の役員と理事以外の会員とで小委員会を作って、独立行政法人福祉医療機構、これは旧医療事業団ですが、その子育て支援基金の助成を受けて、2つのテーマで現在、活動しております。

1つは2001～2003年度まで研究助成を受けて行いました、「女性医師による十代の性と健康の支援事業」です。これは、皆様ご存知のようにいろいろなことを行いましたけれども、引き続いて日本女医学会の自主事業といたしまして、年に1回か2回くらい、特に「十代の性と健康」指導者養成講座を継続して行いたいと考えております。

もう1つは、2004年度から2005年度、2年間にわたって助成金を受けることができました「働く女性のための育児環境整備支援事業」であります。昨年は、病児保育に関する大々的なアンケート調査を行って、その解析もいたしました。医師、看護師、保育士などを主対象とする研修会も昨年は1回行いました。東京の「女性と仕事の未来館」で開催いたしました、比較的大勢の方にお集まりいただきました。

平成16年度の報告書を作成いたしまして支部長先生宛に送っていると思いますので、もしご希望がございましたら支部長先生か本部事務局の方にお問い合わせをいただきたいと思っております。

2005年度、今年度は研修会を大阪で開催予定になっておりますし、公開講演会は来年の1月に東京で行う計画があります。

他に、数カ所で病児保育の施設のヒアリング調査を行いたいと企画しております。

4) これはこれからの最重要課題だと思いますけれども、会員を増強するにはどうしたらいいか。今、

1,900人を割っているというのが現状でございます。一昨年度、名簿を作りましたときの会員数は1,900人を少し越えた数でございましたので、非常に残念な傾向になっております。

これをどうしたらいいかということなのですが、昨日、ワークショップをいたしまして、皆様方のご意見もいただきました。それらを参考にしながら会員増強を図りたいと思っておりますが、やはり何と言いましても、支部単位で支部の方が女性医師に広めていただきたい。それが一番いい方法なのではないかと私どもは考えておりますので、各支部で地域に合うような活動をぜひお願いしたいと思っております。もし支部単位で講演とか公開講座をなさりたいときには、3カ月前までに本部にお知らせいただければ、ある程度の助成はできると考えております。

それからもう1つは、ブロック別懇談会を何回か開いておりますけれども、そこでいろいろな方にお集まりいただいて、日本女医学会というのを知っていただきたい。そういうブロック別懇談会を、やはり今年も続けてやっていきたいと考えております。

ブロック別懇談会に行きますと、いつも思いますのは、100年の歴史があります日本女医学会というものの存在すら知らない女性医師がおられる。私どもといたしましては、各大学にどうやって日本女医学会の存在をアピールするかということで、日本女医学会会員がおられる大学には、その方を連絡係とさせていただいて情報を送っているはずなのでございますけれども、それが大学及び大学関係の所に勤務しておられる先生方及び女子学生にほとんど伝わってないというのが現状なのです。

情報の伝達をいかにしたらいいかということも、皆様方のお知恵を拝借させていただきたいと思っております。

5) これは今日の議題にも入っておりますので後ほどご審議いただきますけれども、日本女医学会も100年の歴史がございますので、ある程度組織疲労を来していることは否めません。その活路といたしまして、仙台の会員から提案されておりました役員の任期の問題がございます。社団法人は、これは1996年の閣議決定で、2年ごとに役員の変更を行うことになっております。そのためには日本女医学会は定款を改正しなければいけませんので、そういう趣旨の定款改正を厚生労働省には提出しているのですが、それに対してまだ何の連絡もありません。ですから、今まで、一応3年ということで行っておりますが、もうそろそろ役員任期は2年にすべきである

と私どもも考えますので、2年ごとに役員の変更を行うという前提で、たとえば会長の連続任期は何期または何年にするかとか、理事の任期は連続何期にするかとか、立候補時の年齢制限を設けるべきかどうかというようなこと。それから、2年に1回役員改選をしなければいけないということになりますと、どういうふうにしたら一番経済的にも、法的にも間違いのない役員選出ができるかというようなことも含めて、皆様にご審議いただきたいと思っております。

6) 最近特に国際交流が盛んになっており、2004年には第26回国際女医会議を日本でいたしました。今年の11月には国際女医会西太平洋地域会議が開かれます。これはブロック会議ですけれども、マニラで行われることになっております。もしお時間のある方はご参加いただければと思います。

それからもう1つ、国際交流で日本女医会が関係しているものに、国連 NGO 国内婦人委員会というのがあります。これは国際組織を持っている日本の女性の団体が10団体加盟しております。医療関係ですと、日本女医会と日本看護協会が入っております。それから、大学婦人教会、BPW など10団体が入っております。7～8年前からでしょうか、中東の女性との交流を行っております。2年前に日本女医会もその担当団体として交流事業をやりましたけれども、これはずっと続いておりまして、他の団

体が幹事になってやるときに我々も参加するということが国際交流を図っております。日本に来られるのはヨルダン、エジプト、パレスチナですが、日本から中東の方へ行きますのは、パレスチナはなかなか入れませんので、ヨルダン、エジプトが主になっております。

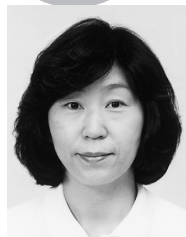
もう1つは、昨日の前夜祭の前に平敷先生から報告がありましたが、国連総会第3委員会政府代表代理を、国連 NGO 国内婦人委員会が推薦して、その推薦された方が政府代表代理として毎年2カ月ほど、国連に参加しております。だいぶ前ですが、山崎倫子先生が3年続けて政府代表代理をなさいました。今は3年連続ということはないそうです。長くても2年連続というのが普通になっているそうですが、昨年は平敷先生に国連総会第3委員会政府代表代理ということで出席していただきました。

このように、国内及び国際的な活動をしておりますけれども、とにかく日本女医会の存在をできるだけ皆様にアピールする機会をどういうふうにして作ったらいいかということも含めまして、日本女医会は女性医師だけの集まりですけれども、女性医師でなければできないような活動をしていると思っておりますので、どうぞこれからもよろしくご協力、ご支援をお願いしたいと思います。簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきます。どうぞ本日はよろしくお願いたします。

## 各賞と研究助成授与

### ●吉岡弥生賞を受賞して

肝炎・肝硬変の治療が夢



富山医科薬科大学第三内科  
高原照美

このたびは、大変名誉ある吉岡弥生賞を頂き、まことにありがたく身に余る光栄と感激しております。すばらしい業績をお持ちの先輩の諸先生方が多数おられますなか、私のような浅学非才の未熟者に吉岡弥生先生のお名前のついた栄えある賞を頂くことができましたこと、本当にうれしくまた責任の重大さを痛感したしております。平敷淳子理事、内湯安子理事のご推薦、御尽力に感謝申し上げますとともに、会の皆様様の温かいお心遣いに心から感謝申し

上げます。

私は1978年大阪大学医学部を卒業し、大阪大学医学部附属病院で研修し、その後芦屋市民病院・内科医師を経て、地元であります富山医科薬科大学第三内科に入局し今日に至っております。富山では佐々木博教授、渡辺明治教授の両先生に師事することができ、肝臓病学、特に肝臓病の形態学、肝線維化機構、ウイルス肝炎の免疫機構、肝再生機構と幅広く臨床、研究をご指導していただきました。

最近の肝臓病は第二の国民病と言われておりますように、輸血後C型肝炎から引き起こされる肝硬変、肝癌が増加の一途をたどっております。多くの患者様は輸血や予防注射といった医療に絡んだ感染経路が指摘されており、医療人として大変責任を感じるとともに治療法、予防法が確立しないものかと日頃痛感致しております。慢性の肝臓病の患者様とおつきあいさせていただいておりますと、症状はないな

がら肝炎がだんだん進行していき、次第に肝硬変になっていけます。その経過の中で高率に肝癌を発症され、エタノール注入療法やラジオ波焼灼療法などで肝癌を治療してもまた癌が再発してくる、と治療・再発の繰り返して患者様ともども私どもの無力さを感じる事がたびたびでございます。幸い、近年のインターフェロン療法は肝炎を治癒しうることから画期的な治療法となってまいりました。しかし半数のかたはインターフェロン不応性であることや、また残念ながらすでに肝硬変や肝癌に進んでしまわれた患者様をいかに治療していくか等、まだまだこの分野では課題が残されております。私はこのような患者様の診療の中で何とか肝硬変への進行がくい止められないか、肝移植以外でできる肝再生療法がないか、と研究のテーマを与えていただき現在に至っております。今後は肝炎の予防はもとより、早期の肝炎の治療、肝硬変になっても再生医療が実現化できることが夢であります。

このような分野での仕事を今回認めていただき、吉岡弥生賞を賜りましたことは本当にありがたく、大きな勇気を与えていただきました。この賞の名に恥じぬように今後とも心を引き締めて、肝臓病に苦しむ患者様ともども全力を尽くす所存でございます。今後ともどうぞよろしくご指導、ご鞭撻賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## ◎吉岡弥生賞受賞の重み



女性医師の矜持を伝える活動が源に

名古屋市立大学大学院医学研究科  
危機管理医学（麻酔・蘇生学）

津田喬子

日本女医会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私こと、平成17年5月21日に名古屋市（於ウエスティンナゴヤキャッスル）にて開催されました第50回日本女医会定時総会において、平成16年度吉岡弥生賞授与の榮譽に浴しました。このような機会に恵まれましたのも、愛知支部並びに日本女医会の諸先生のご支援、ご鞭撻があったからこそと心より感謝申し上げます。

日本女医会が社団法人となった1969（昭和44）年に第1回の吉岡弥生賞が授与されましたが、受賞

者のお一人は愛知支部の故森川みどり先生でした。母と郷里が同じで懇意にいただき、母から先生のことを聞いておりましたので、同じ医師として本賞をいただきましたことには特別な感慨があります。

今でこそ女性は差別されることなく医学部に入学し、医師として活躍できるようになりましたが、平成14年に日本女医会創立100周年を記念して刊行された日本女医会百年史を繙くと、この当たり前のことが受け容れられるまでに多難な歴史があったことを知ることができます。女性医師への道は先輩女性医師が多く苦難を乗り越えて作られたことを心から感謝するとともに、吉岡弥生賞の重みを次代にどのように伝えるかに責任の大きさを感じます。

私は昭和44年に名古屋市立大学医学部を卒業後、1年間の自主研修を終えて昭和45年に同大学麻酔科に入局しました。その後愛知医科大学麻酔科、トロント大学麻酔科にも在籍し、麻酔、集中治療、ペインクリニック、救急を学び、多くの先輩からご指導を受け、同僚、後輩に助けられてここまでやってこられました。平成15（2003）年の医学会総会において「女性医師の過去、現在、未来」のセッションで、医育機関に勤務する女性医師および麻酔科学会代議員へのアンケート調査結果を解析し、女性教職者を取り巻く問題点、現況分析、今後取り組むべき方向性について発表する機会を得ました。さらに翌年（2004）の国際女医会議の plenary session においては *A proposal to improve female physicians' workplace environment based on results of questionnaire survey analyses* と題して日本の現状を発表する機会も頂きました。これらの発表を評価していただけたことに加え、何よりも卒業後一貫して麻酔科医として仕事を続けてきたこと、その経験を愛知県女医会の活動に生かされたことが今回の受賞につながったものと考えます。

医師になった以上は、そのキャリアを継続して病める方の治療、援助、支えとなる義務があります。この度の吉岡弥生賞を更なる活動源として女性医師の矜持を後輩に伝えることが吉岡弥生先生のご遺志にも沿うことと思っております。

日本女医会の諸先生には今後ともご指導、ご鞭撻をいただけますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、日本女医会会長、選考委員ならびに候補者としてご推挙くださいました諸先生に深甚なる謝意を表します。

## ◎吉岡弥生賞を受賞して

病児室を開設して15年



都下東支部 野澤良美

この度、名古屋にて50回日本女医会総会が盛大に開催され、大変賑やかな楽しい会で諸先生方、さぞお疲れの事と拝察申し上げます。

この記念すべき佳き日に由緒ある“吉岡弥生賞”を頂きました事、心より感謝申し上げますと共に今後とも末永く御恩にお報い申し上げるべく務めてまいり所存でございます。

顧みますと平成3年頃より女性の社会参加が多くみられる様になり、従って女医数も増加し育児は保育園、幼稚園に依頼する様になりました。保育中の急な発熱時には園から母親に連絡し母は子を引き取りに来園し、更に医院で治療を受け、頼り手のない時は自宅に子どもを寝かせて外から鍵をかけ不安を感じながら職場にもどる事になり、寒い冬などマッチやヒーターなどから火災が発生、痛ましいニュースが報じられ数々の悲劇を見るにつけ何とか助けた一心で医院の庭に病児室を建て開設する事に致しました。丁度半世紀近くの間、私も妹も大学へ出講しておりましたので（環境衛生）、快適温度、採光、照明、換気、更に騒音防止等に心を配りました。感染症には一对一の保育、軽症には可愛らしい遊具を発案作成し大変好評でした。子供の未来財団より特集号をとの取材に早速作成図をつけ差し上げ多くの保育園からも喜びのお礼の手紙を頂きました。“狛江すこやか病児室”は働く若いご夫妻にとって大変喜ばれ、新聞、テレビ、育児雑誌等の取材に追われ北海道から東北、関東、中部、沖縄よりの見学依頼があり、大型バスでの来室には、うれしい悲鳴をあげました。中でも取材のカメラマンが看護師の奥さんと子供さんとで近くに引越して来られ、とても大喜びで度々利用されました。1年間の利用者数が1,000件を越した時には老体に鞭打って頑張った甲斐があったと思い、少産少子の歯止めに役立てばとうれしゅうございました。

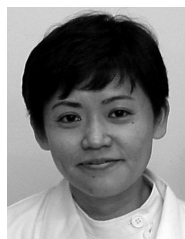
毎日が緊張の連続で度々の国際女医会への出席、学会発表時にも急いで帰国し、留守を守っていた職員達に感謝致しました。

又、大学の教授方より卒論指導の依頼を受け夏休みを利用して毎日若い方々と楽しく頑張っ、完成時には一同大喜びで祝杯をあげました。

開室依頼、約15年間無事故で過ごせた事は何よりも幸せであったと心より喜び、感謝しております。

## ◎学術研究助成受賞に寄せて

ヒトの鎖肛遺伝子解明にむけて



筑波大学大学院  
人間総合科学研究科  
病態制御医学小児外科  
平井みさ子

この度は、「鎖肛ブタの遺伝子解析」に対し学術研究助成をいただきまして、誠にありがとうございました。日本女医会のご高配に深く感謝いたします。

本研究の大きな目的は、鎖肛ブタの遺伝子解析をすすめる、ヒトブタ遺伝子地図を利用することで、ヒトの鎖肛遺伝子の解明につなげることです。

鎖肛（直腸肛門奇形）は、小児外科新生児疾患の中では最も頻度の高い病気です。いわゆる先天性の発生異常で、その発生に関与する遺伝子を解明することは、鎖肛のみならず、いろいろな先天性疾患の診断や治療に大きな光明をもたらすものと期待されます。しかし、ヒトを対象として先天性疾患に関する遺伝子解析を行うことは非常に困難で、現在まで鎖肛に関与する遺伝子は発見されていません。

筑波大学小児外科では、大川治夫前教授の時代から、ブタの一大産地であります茨城県という土地柄を利とし、養豚農家で自然に生まれてきた鎖肛ブタの新生仔を小児外科医が緊急手術で救命し、御協力いただいている養豚農家で飼育、交配実験を行うことで、鎖肛ブタ家系を構築してきました。そして、昨今の動物遺伝学の発展により、ヒトブタ遺伝子地図が解明され、鎖肛ブタの動物疾病モデルとしての意義はより高まりました。さらにこの度、筑波大学小児外科で確立した鎖肛ブタ家系を用いて、以前から交流のありますスウェーデンのウプサラ大学動物遺伝学教室の御協力をいただき、鎖肛ブタのDNA解析を行える機会が巡ってきました。ウプサラ大学に当科から本研究の共同研究者である工藤寿美助手（平成7年卒）が約1年間の予定で留学します。長い年月をかけ、多くの養豚家の方々の御協力のもとに続けてこられた筑波大ならではのこの独創

的な研究を、さらに将来につなげて、鎖肛の診断・治療・予防に貢献する高度先進医療技術を開発していきたいとの希望に、日本女医会からの応援がいただけますこと、本当に心強く感じます。

世知辛い世の中、目先の利益に惑わされ、とかくすぐには収益のあがらない研究は冷遇され、非採算部門である小児医療への支援も見過ごされがちで

す。が、やはり、子どもは社会の存続と繁栄にはなくてはならない存在ですし、地道な研究は臨床の進歩のためには欠くことのできない要素です。私は、国立大学法人に所属する小児外科医として守り進んでいくべき道を自覚し、ご支援いただけます多くの方々感謝しつつ、今後も歩み続けていきたいと思っています。

## 第50回日本女医会定時総会を開催して

愛知の記念すべき年に

愛知支部 細川美智子

今年、中部国際空港「セントレア」の開港、並びに日本国際博覧会「愛・地球博」の開催、と愛知県にとって大変記念すべき年になりました。「元氣な愛知」と称され国の内外から注目を集めているこの時期に、去る5月20日～21日、第50回日本女医会定時総会が、名古屋城を見渡せるホテル・ウエスティンナゴヤキャッスルにて開催されました。総会には124名の会員、講演会には161名と、多数の方々のご出席を頂き、感謝とともにホッと安堵の胸をなでおろしました。

2年前、諸事情から急遽、次々期開催地に愛知が内定して以来、中野慧子支部長のもと、準備委員会を立ち上げ、色々と知恵を絞り、悩み迷走しながら時を重ねて来ました。「愛知方式で地味にやる」がスタート時の申し合わせとは言え、長引く不況下で、業界からの協賛金や、会員からの寄付が予定通りに集まるかどうか、大変懸念されるところでした。しかし、各業界の方々及び会員のご理解と協力のもと、何とか成果を挙げることが出来ました。普段、支部の会合にも参加出来ない先生方や、日本女医会に加入していない先生方まで、「愛知で開催するのなら」と快く進んで寄付して下さいったことは、大変有り難く心強い励みとなりました。

また「愛・地球博」とかち合って、会場や会員の宿泊用部屋の確保には、当初から幾つものホテルをあたり大変苦労しました。特別講演は「この人なら行こうか」と興味が湧くような講師を選定したい、と支部長の肝いりで、作家の平岩弓枝氏に依頼して「日本人の心」と題してお話し頂きました。人と人との絆、思いやりの心等、期待通りの心に残る講演



記念講演をする平岩弓枝氏

でした。この実体験を基に、小説「色のない地図」を執筆されたとのことでした。

総会前日の5月20日に開催された、平敷先生の「第59回国連総会報告」はスライドを見せて頂きながら「第3委員会会議」のあらましや、女性の地位向上の為のさまざまな支援などについてお話し頂き、先生のご活躍に身の引き締まる思いでした。又、今回初の試みの「ワークショップ」は県内の医学部学生も交えて「日本女医会の現状より未来を考える」をテーマに、6つのグループに分かれて意見交換がなされました。「会員増強の方法」、「女医会入会のメリットは？」等々。これらのまとめが今後の女医会の在り方に、指針を与えてくれれば良いかと、期待しています。

アトラクションは、「遠路、愛知までお出で下さる先生方を心から歓迎したい！」と、先輩会員の方々の熱いご協力を得て、5月20日の“前夜祭”では、プロの二胡奏者・張濱氏による演奏で、心を癒して頂き、翌21日の“懇親会”でもプロの演奏者達により、ちょっとお洒落に“ヴィオラとピアノ演奏”で“世界の名曲”の数々を、最後は元気に、地元名古屋を中心に活躍している“田中カルテット”がジャズ、ワルツ、マンボ、オールディーズを演奏して締めました。ボーカルの女性に誘われて、中野支部長を先頭に、会場の先生方も次々に参加して、踊りの輪はみるみる大きくなり、会場は最高潮に達しました。翌日のエキスカージョンは「伝統産業観光コー

ス」「愛・地球博」見学、「ゴルフ」と銘々で楽しんで頂きました。愛知での総会、皆さま、如何でしたでしょうか？ 最後になりましたが、遠路名古屋までお出掛け下さいました先生方に厚く御礼申し上げます。

## 記念講演「日本人の心」を 拝聴して

穏やかで温かな語り口に感動

愛知支部 有吉 允子

第50回日本女医会定時総会の記念講演をご快諾いただいた、作家の平岩弓枝先生のご接待役を仰せつかった私は、ご到着予定時刻前にホテルの玄関で緊張してお待ちしておりました。お車からおりられた先生が、軽い足どりで玄関へと進まれるところを、「平岩先生でいらっしゃいますね」とお声をかけ、遠路お越しいただいたことへの感謝の言葉と自己紹介をさせていただきました。その時先生の目がきらりと輝き、「あら懐かしい名前を聞きましたわ」と微笑んでくださり、私の緊張はすっと溶けていきました。

講演前の控室では、お茶を飲みながら「時代物の小説を書く場合に最も困るのは、その当時の食文化についての資料が少ないことで、うっかり間違ったことを書くと先輩からお叱りを受けるのよ」などと気軽に話をされ、とても謙虚な姿勢に感銘をうけました。

ご講演は、上海で指折りの大富豪沈家のお嬢様を中心としたお話でした。

沈一家は日中戦争の末期に上海から広州を経て香港へ亡命してきた名門の資産家で、このお嬢様の父親は日本人でした。先生は北海道の知人を通じてそのお嬢様とお知り合いになられ、全身にエレガントな雰囲気と上流階級の女性が持つ独特な倦怠感の漂ったこの女性にとっても好感を持っておられました。

香港をしばしばご訪問しておられる間に、沈家が上海で住んでいた大邸宅の広い庭に大きな桜樹があり、毎年桜花を楽しんでいたことを、この女性の母親からお聞きになりました。祖国を捨てて逃げた沈家の人々にとっては、桜樹のその後は知るよしもないわけですが、先生は、「中国へ行く機会があれば、上海の沈家の桜樹を探してみましょう」ということ

で、母親に地図を書いてもらい、持ち帰られました。暫くして、先生は中国政府のご招待で、上海で講演されることになりました。

5日間の予定は目一杯詰まっております、とても自由行動などできない状況を悟られた先生は、仮病を決め込んでホテルの部屋に籠もり、お世話役のすきを見て、上海市内へと急がれました。手書きの地図を頼りに、新しくなった上海の街を必死に歩き回られた先生は、沈家の邸宅の跡を見つけることができないまま、ついに歩けなくなり路地に座りこんでしまいました。ふとみると、路地の突き当たりに大きな桜の樹があり、まさにその地は沈家の邸宅の跡でした。

沈家の人々が愛した桜樹が戦火に枯れもせず、伐り倒されもせず、数十年もの歳月を耐えてきたことに感動された先生は、この話を「色のない地図」という一篇にまとめましたと言われました。香港に亡命し、中国へ帰ることのない沈一家の孤独感や母国に対する執念、中国人と日本人の混血であるという重荷など、種々な想いが交錯しました。先生の最後まで変わらぬ穏やかで温かな語り口は心に響き、涙があふれてきました。

## 大先輩 奈倉早苗先生

愛知支部 支部長 中野 慧子

「皆さん ようこそ愛知県へ！」

張りのある稟とした声で、前夜祭で乾杯の音頭を取られた奈倉早苗先生。



昭和15年に東京女子医専を卒業された先生は、大正6年6月20日のお生まれで、来年には卒寿を迎えられると思えないほどのパワーとオーラで、いつも私達会員を支えてくださっております。

野村き登先生（昭和2年東京女子医専卒）を筆頭に、故森川みどり先生や多くの大先輩方とともに、愛知支部の底力として私達がいままで頼りにさせていただいている存在のお一人で、毎年9月の“大先輩と語る会”でさまざまなお話をしていただけることを楽しみにしております。

先生は女医会のお仲間と日本舞踊を30年ほど続けられ57歳からお能を始められました。「日本舞踊と違いお能は面を被るから私にとってもむいているの



だが、口の悪い人は猩猩の時は地のままでよいよなんて言われた」と大声で笑って話されました。

昨年その先輩と語る会の直前に奈倉先生は心発作を起こされ緊急入院、手術の報に一同大変驚きました。

少し落ち着かれたと聞き、病院へお見舞いに伺いましたら、気丈な先生はもう起き上がって、気遣いをさせないように、楽しい話をされ元気そうに振舞っていました。

退院されて間のない秋、恒例のお能の会があり、ドクターストップがかかっているにもかかわらず、名古屋城の近くの能楽堂にて謡いを演じられました。よく通る稟としたお声が堂内に響きわたり、術後間もないお身体なので、大丈夫かしら？ と少々心配でしたが、最後までしっかりと謡われました。楽屋から大仕事をされた満足げな笑みをたたえて出てこられ、私は先生の中にある年齢を超越した何か大きな力を感じ、感銘を受けました。

尾張徳川の藩医15代目に当り、一人娘で東京女子医専卒業後、東京で勉強中名古屋へ呼び戻され、親の決めた医師と結婚、お子様が出来ずご養子を迎えられ今は2人のお孫さんもあり17代目も育ち何の憂いも無く先生の生き方（生きることが仕事といわれ）を貫いておられます。

前夜祭の先生のお召し物は金で織った着物で、これは3年前、お能で舞うのを止め、謡った時にあつらえたものです。昨年9月、死の淵から生還し、ペースメーカーが入った身体で尚もまた“生きることが仕事”と生きることの喜び、大切さ、何事にも熱意をもって前進することを教えて下さっています。

先生は元気になって晴れの会に出られるのは“生きている証”本当に嬉しいよと前夜祭の出席者に鼈甲のトンボのブローチを下さいました。

私達の大先輩 いつまでもお元気で愛知支部の大黒柱でいて下さい。

## お知らせ

### 第8回 国際女医会西太平洋地域会議への参加募集

以下の期間に、マニラ市で第8回国際女医会西太平洋地域会議が開催されます。往復交通費とホテル代、登録費をすべて込みで、お世話申し上げます。参加申し込みの締め切りは**8月10日(水)**です。ファックス(03-3498-8769)でお知らせください。(ナショナルコーディネーター 内湯安子)

#### 記

会 議 名：第8回国際女医会西太平洋地域会議

期 間：2005(平成17)年11月10日(木)～12日(土)

場 所：フィリピン・マニラ市「マニラホテル」内

メインテーマ：Golden Health Care Towards The Silvering Years

トピックス：7つのテーマをかかげております。

①周産期の問題、②子どもの健康、③思春期年代の育て方、

④女性の健康について、⑤長寿に向けての生活はどうあるべきか、⑥

妊婦の健康、⑦高齢者時代

登 録 費：日本女医会会員 250米ドル

非会員 300米ドル

随行者1名につき100米ドル

ホ テ ル：会場であるマニラホテルを予約しました。

シングルルーム126米ドル (税・サービス料込み、朝食付き)

### 「国立女性教育会館研究紀要」第10号投稿論文募集のお知らせ

1 趣旨 独立行政法人国立女性教育会館では、会館の調査研究の充実を図るとともに、わが国における女性教育の進展に寄与するために発行する会館の調査研究の成果およびジェンダーの視点に立った生涯学習に関わる国際的、学術的研究並びに実践的研究に掲載する「国立女性教育会館研究紀要」の投稿論文を募集する。

2 テーマ テーマは自由とする 3 応募者 国内外の研究者、行政関係者、実践者等

4 原稿締切 平成17年11月4日(金) 必着

詳細については日本女医会事務局までお問い合わせ下さい。

(電話 :03-3498-0571 FAX:03-3498-8769 メール : office@jmwa.or.jp)

## オプションツアー記

名古屋の伝統産業観光コース

# 名古屋の匠達

岡山支部 門田正枝

5月21日の総会の翌日、観光バスは満員の会員を乗せて定刻にウエスティンナゴヤキャッスルホテルを出発し、かの有名な名古屋城を左前方に見ながら、最初の目的地有松鳴海絞り会館に到着しました。



有松・鳴海絞会館

絞りの町有松は名古屋の南方町並保存地区の一面に



有松絞の実演

あり、慶長13年に絞り開祖竹田九郎らにより誕生しました。その後、尾張藩が特産品として保護し現在に至っております。現在、そ

の伝統の絞り技法は100種類にも及び、日本の絞り生産量の約90%を占めている様です。この会館で絞り工程の映像や実演を見せていただき、売店でTシャツやハンカチを買ってバスに乗り込みました。

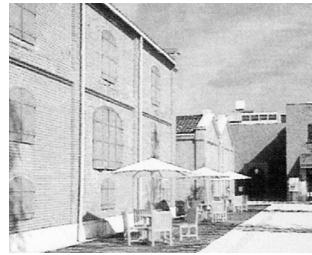


次に私達は、徳川美術館に向いました。入口を入ると正面に家康公の甲冑が迎え、大きな幟と共に、私

達の目を奪いました。更に奥に進むと、尾張徳川家に伝わる大名道具1万数千件、武器刀剣、能衣装、奥道具、書院飾りなど、興味深く貴重な品々にしばし時を忘れました。その上当日は春季特別展「よみがえる源氏物語絵巻」が開催されており、徳川美術館の至宝を堪能しました。平成10年より復元模写が始まり、平成17年3月完成との事でした。お昼はガーデンレストラン徳川園で懐石料理を戴き、会員の皆様と日頃の苦労話をしながら楽しいひとときを過ごしました。ところが食事なかばで突然ドシャブリの雨となり、予定していた徳川園の散歩



徳川美術館



ノリタケの森

も記念写真も中止して徳川園をあとにしました。

最後の訪問先はノリタケの森。クラフトセンター。1904年、森村翁が、名古屋の則武

に会社を設立、その地名にちなんでノリタケと名付けられました。明治～大正にかけて、東京、京都、金沢、名古屋より腕の良い職人を集め、これまでの幽玄、渋いといった価値観から、洋風の明るくて力強く華やかな絵付けを作りました。



私にとりまして、初めての名古屋訪問でしたが、400年後の今も息づく有松絞りの技、100年前から世界のノリタケをめざして、真の豊さを育ててきた食器のノリタケカンパニー。尾張徳川家の国宝の数々。いずれもすばらしい古今の匠の技に感銘し、又諸先生方と再会をお約束して、バスを降りました。愛知支部の皆様、大変お世話様になりました。ところで地球の未来に会いに行かれた「Expo 2005 愛地球博ツアー」の方々はたくさんの未来に出会えたでしょうか。

写真はパンフレット・チケット等より転載しました。

## 愛・地球博ツアー

# 大混雑のパビリオン

神奈川支部 稲生 襄

5月22日 8:15 ホテル発。15:10 名古屋駅解散の予定にてのバス旅行である。

万博会場までは余り遠くなかったが、日曜日のため、どのパビリオンも大変な混雑でどうしようもない有様。取り敢えず同行の辻沢キヨ先生と2人で空いているリビア館やエジプト館をみて、写真を撮ったりした後、二人乗りの自転車にて館内を一周した。この自転車は途中にとまってみるのではなく、眺めながら一周するだけである。坂を上る時は電動式になっている由、この他にも電車の一車両位の車もゆっくり走っていた。又空中ケーブルカーにて下を眺めるのもあった。



長蛇の列の日本館。中央が筆者

昼食には当地名物の「みそカツ」を美味しくいただき満足した。

日本館（丸い屋根は全部竹製）などは90分待ちの長蛇の列。最初20分程並んでみたが、帰りの集合時間に間に合いそうもないので断念。

空いている所をのぞき、お土産をあさり（スイング笛入りマスコット、モリゾー。ゴム付き。上下に振ると音がでる。緑色をしていてとても可愛い）、バス乗り場へと急ぎ、帰途につく。

名古屋発午後4時台の“のぞみ”に乗車、1時間半にて新横浜着、家路に向かう。天候に恵まれとても楽しい2泊3日の旅であった。

## 第50回日本女医会定時総会 に出席して

万博開催地、活気あふれる名古屋から

長野支部 渡邊智子

ご近所に開業し、平素から大変お世話になっている、長野支部長・内坂由美子先生にお誘いを受けて、

去る5月20日から名古屋で開催された第50回日本女医会定時総会に出席いたしました。私と日本女医会との出会いは、2年前に長野市において開催されました、「十代の性と健康指導者養成講座」でした。会のお手伝いをさせていただき、産婦人科の女性医師として社会に貢献することの大切さを学び、今後引き続き継続させていくために、入会させていただきました。

5月20日、外来が終わってから名古屋に発ちましたので、残念ながら平敷淳子先生のご講演と、ワークショップに参加することができませんでしたが、後の懇親会で平敷先生とお会いし、外来を閉めても講演をお聞きすれば良かったと後悔いたしました。夜遅くに着いたにもかかわらず、名古屋は道路が渋滞し、万博の活気を感じさせました。

翌朝、評議員会に関係のない私は、早速目の前の名古屋城見学に参りました。

普段はお城のてっぺんに飾られている金の鯨が、下界に下りて手に触れることができました。すっかり金持ち気分ホテルに戻り、評議員会会場前を通りかかると、中から若いホテルの従業員がよろめきながら出てきて、「この部屋緊張してもう嫌！」な



A-IIアンタゴニスト  
**ニューロタン錠50**  
NU-LOTAN (ロサルタンカリウム錠) <薬価基準収載>  
指定医薬品・処方せん医薬品：注意 — 医師等の処方せんにより使用すること

製造販売元【資料請求先】  
**BANYU 万有製薬株式会社**  
A subsidiary of Merck & Co., Inc.,  
Whitehouse Station, N.J., U.S.A. 〒103-8416 東京都中央区日本橋本町2-2-3  
ホームページ <http://www.banyu.co.jp/>  
©Trademark of Merck & Co., Inc. Whitehouse Station, N.J., U.S.A.  
2005年4月作成 04-10CZR05-J-5A34J

本剤のご使用にあたり、【使用上の注意】等詳細については、  
製品添付文書をご参照ください。

どと言っているではありませんか。もしや何か議題が紛糾しているのでは？と思い、恐る恐る会場を覗いてみると、和やかな雰囲気です。昼食をとる評議員の先生方のお姿……。何に緊張したのだろうと考えつつ会場に入りましたが、その後の活発な総会の様子から、私にも緊張の理由が少しわかるような気がいたしました。第一線で活躍される諸先生方に囲まれ、襟を正す気持ちに自然となりました。

総会に続き、作家の平岩弓枝先生の「日本人の心」をテーマにした講演がありました。先生の小説の愛読者との出会いから、香港で日本人の血を引く名家の女性と知り合い、中国にあるはずの彼女の実家を運命的に探し当てるまでの、それぞれ小説以上の物語をお話くださり、心の奥に響くような感動を覚えました。平岩先生と年代の近い先生方は、ご自身の戦中、戦後のご苦勞を思い出されてか、講演の序盤からハンカチが手放せない様子でしたが、そのような経験のない私も、それぞれの方の心情を思っただけで涙が止まりませんでした。日本の心は日本の外にあってより強く感じるものなのかもしれません。本当に素晴らしいご講演でした。

その後、愛知支部が総力を挙げて取り仕切ってくださいました懇親会が開かれました。おいしいお料



生演奏にあわせてダンスを楽しんだ懇親会

理と美しい音楽を堪能いたしました。ジャズ&タングの曲に合わせて、多くの先生方が輪になって楽しくダンスをしたことが、今でも印象に残っています。その会場で多分一番若いと思われる私でしたが、先輩方の情熱とおおらかな姿に、多くの勇気をいただきました。

今後女性医師の数は年々増加していくと思われませんが、今はまだそれぞれの地域で孤軍奮闘しているというのが現状だと思います。日々忙しく、旅行にはなかなか参加できない先生もいらっしゃると思います。ですが、「十代の性と健康指導者養成講座」の設営など、社会的な活動の場を与えられることは、若い医師にとっても大変勉強になります。今後もさらにそのような企画がなされますよう、願っております。今回初めて女医会総会に出席して、逞しく華やかに活躍されている先生方と出会い、とても心強く感じました。来年は友人の医師に声をかけ、もっと大勢で参加したいと思いました。

会長先生をはじめ、愛知支部の先生、事務局、内坂先生に心から感謝申し上げて報告とさせていただきます。

#### ワークショップ

## 日本女医会の現状より 未来を考える

副会長 加藤 竺子

近年、100周年記念の行事を始め2004年に東京で国際女医会議を開催する等大きなイベントを無事終了しました。これからの時代に即した発展可能な

### お知らせ

## ワークショップ「『病児保育』を考える」にご参加ください!!

子育て支援委員会 池谷紀代子

少子高齢化が急速に進行している現在、社会における女性の労働力の重要性はますます増してきました。

仕事を一生続けたいと考える女性も増えていますが、育児の負担はほとんど母親が担っているのが現状です。女性が仕事を続けていく上で、子どもが病気の時でも安心して預けられる病児保育は必要不可欠です。

日本女医会では、平成16-17年度独立行政法人福祉医療機構助成金（子育て支援基金）をうけ、働く女性のための育児環境支援整備事業として病児保育をとりあげて、全国保育施設に対するアンケート調査、講演会を行ってまいりました。今回、病児保育発祥の地、ともいえる大阪におきまして、同封のチラシのようなワークショップ開催を予定しております。このワークショップをとおして、より良い病児保育について考えていきたいと思っております。多数の御参加、活発な御討論をお待ちしております。

【日時】2005年11月13日(日) 9:30開場 10:00時開演

【会場】大阪府医師協同組合新本部ビル8階大ホール 【定員】150名 【参加費】1,500円(昼食代含)

会につながるには今こそ真剣に考え対策を講じる必要を痛感しまして、第50回日本女医会総会前日の5月20日に古賀詔子理事を司会に「日本女医会の現状より未来を考える」と題しワークショップを行いました。

出席者は各班12～13人、6グループに分かれ、門田正枝会員、津田喬子会員、大坪公子会員、山本縊子会員、船越由美子会員、山崎トヨ会員がそれぞれリーダーをつとめました。

今直面している一番の問題は、女性医師総数は増加しているのにも拘わらず、新しく若い会員の入会が少なく、既存会員の高齢化、物故者や高齢のための退会者が新入会員を上回る状況を呈していることです。多くの先輩は厳しい環境のなかで日本の医学医療に貢献、特に女性の地位向上に努力してこられました。

医師の場合必ずしもまだ完全な男女平等と思えない部分が多々あり、特に適齢期の結婚、出産、育児を仕事と両立するには、女性にかかる負荷はその後のキャリア形成に影響を与え個人の努力を越えるものがある事も事実です。

今後女性医師の後輩が社会でハンディを感じず事なくキャリア形成につとめ仕事と家庭を両立するには、働く女性の環境改善の整備、支援の必要を感じます。女医会として具体的にどんな役割を担う事が出来るか、理事会としても大切な課題と考え、常に対策を摸索し努力はしていますが、新会員の加入はおもわしくありません。

今回のワークショップでは参加された会員から忌憚のないご意見を出して頂き、グループ毎にまとめて発表して頂きました。会員増強について女医会としてどうすればよいか、今後とも女性医師のルーツとして会の持続可能な発展をめざすための建設的なご意見が多く出されました。

各班のリーダーがとりまとめた内容は以下の通りです。

1. 女医会が周知されていない。PR不足。
2. 女医会の魅力、入会のメリットをつくる。
3. ITを活用してホームページの充実、魅力ある女医会の情報を常にアピールする。吉岡弥生賞や荻野吟子賞並びに研究助成制度などの活動を周知するよう広報する。
4. 女医会の魅力づくり
  - ①社団法人日本女医会の歴史、活動内容、女医としての特性を踏まえた専門職集団としての誇りと団結、活動内容、相互の交流親睦、後

輩の指導、女性医師の特性を生かした活動の役割と使命感、家庭と仕事を両立する為の環境の整備充実、支援体制の強化、会員相互の研鑽と親睦、国際女医会との関連、会本部と支部組織の連携強化、支部組織の活性強化、財源問題、会の魅力とメリットを如何につくるか？

## ②人材バンクの充実と活用

医学・医療で活躍している会員や社会的活動をしている女医の登録を幅広く勧誘

## 5. 財政基盤の拡充整備

## 6. 女医会組織の検討、高率化

大変建設的で貴重なご意見が寄せられましたが、これを具体的な対策として実施するには、現在の理事会の体制でやれる可能性はかなり制約されてしまっています。特に人材、組織、財源の確保などは課題として残ります。

理事会ではプロジェクトチームをつくり対応の検討を予定しております。早急にホームページの充実を計画致しました。

## 役員任期に関する定款改正

副会長 鹿田儀子

平成14年10月に宮城支部より役員任期に関して提言があり、理事会にて検討し、又会員の皆様のご意見も求め、理事会での検討だけでは不十分と小委員会を設けて討議を重ね、第50回評議員会、及び総会に第4号議案として審議して頂きました。

会員の貴重なご意見を頂き、審議の結果、賛同して頂き可決致しましたことを報告致します。

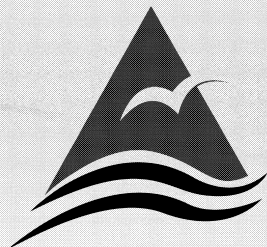
## 役員任期に関する定款施行規則改正

| 現 行  | 改正案  |
|--|--|
| 第2章 役員<br>(役員)<br>第3条 定款第14条に規定する理事は21～25名とする。 | 第2章 役員<br>(役員)<br>第3条 定款第14条に規定する理事は21～25名とする。 |
|  | 2 会長は連続3期、理事は連続5期までとする。監事は連続2期までとする。           |
|  | 3 全ての役員は立候補時、75歳未満とする。                         |



# Amlodin

さらに、一緒に、歩みたい…



高血圧症・狭心症治療薬/持続性Ca拮抗薬——薬価基準収載  
劇薬・指定医薬品・要指示医薬品(注意—医師等の処方せん・指示により使用すること)

## アムロジピン<sup>®</sup>錠<sup>2.5</sup>/<sub>5</sub>

Amlodin<sup>®</sup> ベシル酸アムロジピン

■効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等につきましては添付文書をご参照ください。

 **住友製薬**

製造発売元(資料請求先)  
**住友製薬株式会社**  
〒541-8510 大阪市中央区道修町2丁目2番8号

〈製品に関するお問い合わせ先〉  
くすり情報センター

**☎0120-03-4389**

受付時間/月~金 9:00~17:30(祝・祭日を除く)  
<http://e-medicine.sumitomopharm.co.jp>

## 平成16年度学術講演会を開催して

学術部 斎藤加代子

平成16年度の学術講演会は平成17年1月15日(土)、京王プラザホテルにて開催されました。東京女子医科大学附属女性生涯健康センター所長の加茂登志子先生に「女性のメンタルヘルスと女性外来」というタイトルで、約1時間のご講演をしていただきました。加茂登志子先生は昭和58年、東京女子医科大学をご卒業後、精神医学教室に入局なさいまして、平成16年3月に東京女子医科大学精神科教授にご就任、9月に女性生涯健康センターの所長にご就任なさいました。

女性の生涯にわたる健康管理の重要性について、女性の心身の健康を守るために女性生涯健康センターが取り組んでおられることなど、詳しく、また大変分かりやすくお話ししていただきました。ご講演の内容の詳細は先生のご報告をご覧くださいたく存じます。参加者からの活発なご質問にも、丁寧にお答えいただきました。ご講演後の新年の懇親会では、ご馳走をいただきながら、加茂先生のご実家のお話にもなりまして、楽しい新年の夕べを語りながら過ごしました。

今年度の学術講演会は10月頃を予定しております。多くの会員の皆様をご参加下さいますよう、学術部一同よりお願い申し上げます。

### 講演要旨

## 女性のメンタルヘルスと女性外来

東京女子医科大学附属女性生涯健康センター  
加茂登志子

近年、Gender specific medicine (GSM: 性差を考慮した医療、あるいは性差に基づく医療) が注目を集めている。90年代初頭から米国を中心に急速に広がった概念であり、その発展の背景には男性を雛形とし、あるいは男性のデータをそのまま女性へ援用していた従来の医学的体系への反省があるとされる。Evidence-based medicine の隆盛も GSM の発展に一役買うことになった。すなわち、性差に関するエビデンスが不足しているとの認識が、この分野に様々な疾患領域の研究者の関心を集めるきつ

かけとなったのである。そして、これらの研究が同時に相互に触媒となって、医学の重要な対象としての“女性”が再発見されることになった。かつて産婦人科領域の専売特許であった女性ホルモンに関する研究は、最近急速にボーダレスな広がりを見せるようになり、特に精神医学や脳科学においては目覚ましい発展をとげている。

一方、GSM の流れは現在幾分姿を変えてわが国の臨床に導入されつつある。全国レベルでひとつのブームとなっている女性専門外来の開設がそれである。わが国の女性専門外来の特徴は、女性医師が女性スタッフとともに女性の患者を細やかに診るというキャッチフレーズにあり、男性医師には相談しにくいこと、見せにくい症状や患部を同性の医療者ならば安心して相談し、診断・治療を委ねられるというセールスポイントのもとに、女性専門外来は産婦人科以外にも泌尿器科、精神科、心身医学など様々な科に積極展開されることとなった。また、これらの科が幾つか集まった形での総合的なレディースクリニックも生まれている。GSM の発展という鍵が、時代を反映する患者のニーズや QOL への関心の高まりといった鍵穴に納まって女性専門外来が急激に増える結果になったのだとも言えるだろう。もうひとつ、その背景分析に欠くことのできない視点として、わが国における女性医師の増加も指摘しておく必要がある。現時点で20代の医師の1/4はすでに女性であり、女性医師というだけで希少価値であった時代はすでに過去のものになりつつある。言い換えれば、ある水準以上の女性医師が大きな困難なく確保されるようになって初めて全国レベルでこのような外来設置が可能となった訳である。

研究・臨床のニーズと臨床領域での女性医師の十分なサプライがあって、女性医学、なかでも女性のメンタルヘルスは世界的に重要な転機を迎えつつある。

女性のメンタルヘルスで頻繁に取り上げられるテーマを箇条書きするとすれば、精神疾患における罹患率の性差、月経前緊張症・月経前不機嫌症候群などの月経に関連した気分や自律神経の失調状態、マタニティーブルーや産後うつ病・産褥期精神病などの妊娠中の精神疾患、更年期障害、不妊治療における心理的問題、統合失調症や気分障害などの精神疾患における女性の特徴、摂食障害、配偶者間暴力・性暴力被害者への援助などが挙げられる。

一般に、小児・学童期の発達障害などは男児に多く発症することが知られているが、思春期頃から女

性の罹患率が増大し、閉経以降、女性の精神疾患罹患率はさらに上がるとされている。

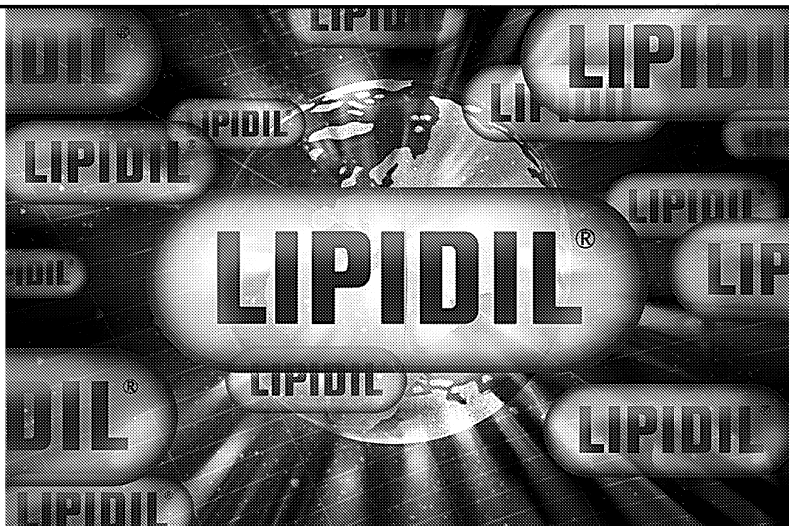
気分変調症、双極性障害、季節連関性うつ病など一般に気分障害は女性に多く発症するとされている。なかでもうつ病はおよそ2:1で女性に多く見られることが知られている。気分障害と並んで不安障害にも女性に頻度が高い疾患が多く指摘されている。例えばパニック障害や社会恐怖、全般性不安障害も同様に女性のほうが多い。また、表には記載されていないが、外傷後ストレス障害(PTSD)も同様である。摂食障害は女性に圧倒的に多い疾患である。わが国では95%が女性に発症する。一方、アルコールや薬物依存、反社会性人格障害は男性に多い。

生涯罹患率だけではなく、個別症状、合併症、疾病経過にも性差が指摘されている。例えば、うつ病の症状でいえば、過食や過眠傾向、体重増加といった非定型的な症状は女性の方に多く見られると言われる。このような差異が生じる基盤で第一に考えられるのはやはり女性ホルモンの変動や中枢神経系への作用だが、同時に心理社会的因子も看過できないものとされている。

GSM 以前から、精神科疾患には、好発年齢、状

態像、疾病経過、治療に対する反応性、予後などいろいろな面に性差が認められると言われてきた。例えば、戦後のドイツ精神病理学のひとつの潮流であり、またわが国では1960年代から70年代にかけて全盛となった躁うつ病の状況論研究がある。引越うつ病と呼ばれる転居によっておこるうつ病はほとんどが女性であることなど、精神疾患の発症状況における性差が注目を浴びた。曰く、男性では社会的事情、女性では家庭的問題が精神疾患の発症要因となることが多い。男性における職業への取り組みを単純に社会的事情とくくるには、21世紀となった現在、抵抗を感じ得ないが、それでもこのくくりは今も援用が可能であろう。状況論はわが国においてその後隆盛してきたライフイベント論やライフサイクル論の中に徐々に馴染み、同化してゆく。ライフサイクルの視点は女性に限らずメンタルヘルスの領域には非常に重要な概念である。

第2次世界大戦のあとの半世紀、世界の大部分はそのかたちも有り様も大きく変化したが、わが国はそのなかでも最も変化した国のひとつである。ただか半世紀間に日本人の平均寿命は男女ともに30年以上延長したが、これはただ人生の後半部分が長くなったということを意味する訳ではない。従来の



**LIPIDIL<sup>®</sup> Cap.**

●薬価基準収載



## 高脂血症治療剤

指定医薬品 処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること

# リピディル<sup>®</sup>カプセル100

(微粉化フェノフィブラートカプセル)

●効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等の詳細は、添付文書をご参照ください。

〔製造販売元〕 **グレラン製薬株式会社**  
東京都羽村市栄町3丁目4-3  
提携 **Laboratoires FOURNIER S.A. (France)**

発売元

〔資料請求先〕

**科研製薬株式会社**

〒113-8650 東京都文京区本駒込二丁目28-8

(2005年3月作成) O5X



固定的な概念に比べ、その質と長さが変わりつつあるライフステージが多い。青年期の自分探しには一昔前よりずいぶん時間と労力が必要になった。また青年とも中年ともいえない若い成人期、中年期も長くなり、60代を老年と呼ぶには違和感を覚えるようにもなった。初潮の年齢は早まり閉経は遅くなり、妊娠可能期間もまた延長した。

このように女性の生き方が変わってくることによって、いろいろな局面でギャップが生じるようになった。世代間、男女間、また、自己に内在するギャップなどがその例として挙げられる。上記した様々なギャップが大きくなる時期にこころの悩みや心理的・精神的症状が出現してきやすくなる。これを理解し、治療していくために必要なのが、女性のライフサイクルの心理社会的理解であり、女性外來に望まれている大きな期待であると考えている。

日本女医会・宮城県女医会

市民公開講演会

## 『女性のための紫外線講座』

宮城支部 安藤由紀子

日本女医会、宮城県女医会主催による市民公開講演会『女性のための紫外線講座』が平成17年3月26日午後2時より宮城県医師会館にて開催されました。

宮城県女医会は、女性の健康をテーマに公開講演会を開催しており、初回は堂本暁子氏を迎えての「女性の健康・女性の医学」、2回目は天野恵子氏の「性差医療について」、そして今回はその第3回となります。

まず、宮城県女医会山本蒔子会長より挨拶があり、女医会の、この公開講演会を含めこれまでの活動や、県とタイアップして行っている女性相談室についてのお話がありました。続いて、日本女医会宮城支部長渡部光子先生の座長により、弘前大学皮膚科教授花田勝美先生を講師にお迎えし、『女性のための紫外線講座』と題しての講演に入りましたが、当日は小雪まじりの風が吹く寒い日にもかかわらず、100名近くの来場者を迎え大変盛況な講演会となりました。

スキントイプでは、日本人は欧米人と同じ位紫外線に弱いタイプであるという事や、波長や紫外線のお話では、UVBのみならずUVAも真皮に作用し

ラーゲンを破壊し、しわの原因となる事等、女性に関心のあるしみやしわの原因とその予防まで、非常に分かりやすく、今流行のしわとりや美白というアンチエイジングに関するお話もあり、大変楽しい内容でした。

また、糖尿病や高血圧症に使われる薬剤や消炎鎮痛剤にみられる光線過敏型薬剤についてのお話では、日常診療の中でも思い当たるものがあり、改めて注意が必要と感じました。

子供の紫外線対策も重要なテーマで、6カ月以上の子供はサンスクリーンの使用が可能である事、子供に対する紫外線教育や学校に木陰を作るなどの対策も大事であるというお話でした。あの有名なスポック博士の育児書の中からも、日光浴の項目がなくなっているとのことでした。

今後も女性にとって重要なテーマを取り上げ、気軽に足を運んでいただき、広く市民に話題提供できるような公開講演会を続けていきたいと思っております。

## 講演要旨

弘前大学皮膚科教授 花田勝美

ヒトは太陽光を避けて生活することはできない。したがって、眼にみえない太陽紫外線からも逃れることはできない。そこで、身近な紫外線の功罪を理解し、太陽光との上手な付き合い方について一般市民とともに語り合う。紫外線について学ぶ主要なテーマは以下のごとくである。

- ・紫外線はなぜ怖い？
- ・しわやしみはなぜできる？
- ・日光浴は必要ですか？
- ・サンスクリーンは何歳から使うべきか？
- ・子供のための紫外線教育は？

まず、太陽光を理解していただくために人工太陽とプリズムを使用、可視光線や紫外線の存在を理解いただく。地上に到達する紫外線は中波長紫外線(UVB)と長波長紫外線(UVA)の2種類があり、それぞれ異なる生物学的特性を有する。とくに、日焼けの元凶となるUVBは、後述する紫外線障害のいずれにも関与する。一方で、これまで安全と考えられていたUVAも活性酸素種の発現を通して皮膚の細胞に障害を与えることが知られている。また、深部に到達して、皮膚の線維成分を変性させ、しわの原因にもなりうる。紫外線による主な障害として

は、急性の障害であるサンバーン、サンタンに加えて、慢性の障害である、光老化（しわ、しみ）、皮膚ガン、免疫の低下がある。それぞれの発現機序に触れた。色黒の皮膚（メラニンが豊富）は、色白の皮膚に比べると何倍も紫外線に強い。サンタンのもとになるメラニンは神様がくれたサンスクリーンである。しかし、ヒトはそれぞれ固有のスキントypesを有し、日本人といえども紫外線に対する感受性は一様ではない。ここではスキントypesの判定法を学ぶ。ヒトがヒトをみて、およそ何歳であるかを判断できるのは、紫外線にどれほどの期間曝露されたかによる。日光浴については、骨粗鬆症が心配される場合でも、あえて行わなくてもビタミンDは食物で充分補える。怖い紫外線障害は、小児からの慢性曝露が原因となる。そこで、サンスクリーンの有効な使用方法について学び、使用開始時期は、生後6カ月からでも良いことを知る。サンスクリーンはUVB、UVAの両者を防御するものが理想である（SPF値15以上、PA+～++++）。

## NPO イージェイネットのご紹介

NPO イージェイネット副代表理事、東女医大学内支部  
藤巻わかえ

正式名称を「女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会」といいます。男も女も、そして医師もそうでない人もあわせて、10人あまりが力をあわせて、昨年7月にこの会を立ち上げました。今年1月に内閣府からNPOとして認定され、現在会員は100名あまり、さらに増え続けています。大阪と東京に事務局をもつ全国組織です。

女性医師の集まりは日本女医会を頂点として今までにも沢山あり、女性医師のための活動がすでになされています。では、なぜ私達があえてこのような会をつくりたいと思ったのか、その経緯を書いてみたいと思います。

日本社会では女性が働き続けるための社会的構造が完全に整備されているとはいえません。ところが、医師という職業は、病者に対する責任を全うする事が厳しく求められます。それゆえ結婚・出産・育児・介護により最前線からの一時撤退や現役引退を迫られることが珍しくはありません。そして再び社会復帰を本人が望んでも、育児等の支援体制の不備、実技を含めた最新の医療技術を維持するための再教育

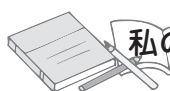
システムの不備、再就職支援のルートが確立されていない、などの理由で、現場へ戻ることは難しく、医療現場は有能な人材を活用できていないのが現状です。その一方で、女性医師は急増しています。いまや29歳以下の医師のうち30%は女性であり、しかもこの年齢層では毎年女性医師が300人増えるのに対して、男性医師は100人減少しているのが現実です。この現状から、近い将来女性医師が医師の半数を占めるであろうと推測され、もはや女性はマイナーグループではなくなります。そうすると、働き盛りの女性医師が、もし種々の障碍により第一線の医療・研究現場を去ることになれば、現場が甚大な打撃をこうむることは必至です。すでに、女性医師の多い小児科などの診療科では、女性医師の去ったあとに残された医師の過重労働（人手不足）が深刻な問題になっております。

今までは、女性医師が家庭をもちながらも仕事を続けることは、個人の努力と熱意に負ってきました。それでも、働く女性が増えて少子化が進むにつれ、育児支援という形での社会的支援がだんだん進んでまいりました。しかしながら、専門職としての医師にとっては、さらに踏み込んだ支援、つまりキャリアの形成や維持はもちろんのこと、キャリアアップまでを見据えた支援がどうしても必要です。しかも、このような支援は女性医師のためばかりではありません。女性医師の問題解決により、男性医師も働きやすくなり、ひいては、国民がより良い医療を享受できるようになることが期待されるのです。以上のような考えから、女性医師をとりまく構造的な課題を解決する糸口をもとめ、女性医師の社会貢献と地位向上の支援を目指して、特定非営利活動法人イージェイネットを設立したわけです。イージェイネットとは、enjoy、女医、援助、などそのネットワークをかけて作った名称です。そして会員には、男も女も、また医師である人もそうでない人も、問題意識を同じくする人々が参加しているのです。

では、イージェイネットのいままでの活動について書いてみたいと思います。

昨年の国際女医会議のワークショップでは、代表理事の瀧野敏子が日本の女医の現況と問題点を報告し、リーダーシップをとれる女医が育つためになにが必要かの提言をしました。今年5月29日には、大阪で第1回シンポジウムを開催しました。1カ月たらずの宣伝期間だったにもかかわらず、全国から116名もの参加があり、中には5カ月の赤ちゃんを抱いた御夫婦が遠方から参加してくださいました。





## 女性卒業生のサポートのために

福岡支部 小畑泰子

私の卒業した産業医科大学は、北九州市の折尾というところにあります。創立は1978年(昭和53年)ですので、今年で開学28年となりました。現在は、医学部の他、産業保健学部の看護学科、環境マネジメント学科が併設されています。医学部卒業生は、既に2,100名を超えています。産業医科大学の目的であり、特徴であるところは、大学設立の主旨にも「産業医学の振興と優れた産業医の養成を図ることを目的として設置されたものである。」とうたわれているように、世界で唯一の産業医養成のための目的大学であることです。そして産業医科大学には、修学資金制度があり、授業料等を援助(一時期は全額免除もあった)していただくかわりに、卒業後一定期間(通常9年間)は、義務年限として、産業医等として、勤務しなければならないというシステムになっています。自治医科大学や防衛医科大学と同じような制度です。産業医等として勤務しない場合は、在学中貸与された修学資金を利息をつけて返還しなければなりません。卒業生の中には、全額または一部を返還した人も大勢いますが、最近の傾向としては、返還せずに産業医等となって就職していく卒業生が増えてきているように思います。

産業医等と表現しましたが、これには、専属産業医、企業外労働衛生機関(健診機関)勤務医、労災病院勤務医、産業医科大学教員等が該当します。私は既に修学資金の義務年限を終了していますが、これまでに専属産業医および産業医科大学産業医実務研修センターの教員を経験してきました。

ところで、産業医大でも他大学の医学部同様、女子学生が年々増加し、最近では4割前後の数になっています。私が学生の頃は数%~せいぜい20%程度だったので、ずいぶん雰囲気も変わってきているようです。女子学生および女性医師が増加してくると表面化し注目されてくる問題として、家事・育児と仕事との両立問題があります。特に私たちは、修学資金の義務年限という“縛り”があり、ちょうど結婚・出産・育児の時期がこの義務年限と重なるため、皆いろいろな意味で苦労しているという現状があります。

そこで、私たちは、女性卒業生を支持支援することを目的に産業医科大学医学部同窓会の助成を受け

て“アリスの会”という会を設立し活動をはじめています。卒業生の知恵と経験を共有し、家庭と仕事の両立の問題だけでなく、様々な面で助け合って行きましょと、卒業生有志が始めた会です。以前より産業医大の同窓会には、産業医学推進研究会(産推研)という会があり、産業医としての仕事の面での情報交換やサポートのためのいわば“公的な自分作り”に対して活動を展開中です。一方アリスの会は“私的な自分作り”をサポートする会と言えるかもしれません。会員は原則として医学部卒業生、学生ですが、会の趣旨に賛同される産業医大職員の方も会員におられます。男女や卒業年度を問わず、産業医、臨床医、大学教員など立場の違いも問いません。活動としては、年1回の会誌の発行、年1回ずつの定例研究会および総会、また昨年度からは、東京、北九州、大阪で年1回ずつ「卒業生と学生の集い」を始めています。

私は、アリスの会を、お母さんのように、卒業生や学生を見守っていくような存在にしていければよいと考えています。

故小野春生先生へ  
Dr. Maxwell からの お悔やみ

### Thinking of You in Your Sorrow

*May your memories be a comfort to you at this time.*

To Dr. Hashimoto, Dr. Heshiki, all the Japan Medical Women's Association Council and all members of the Association.

We all mourn our dear friend and colleague, but must remember that through her long years of ill health and disability, her cheerful nature, her wisdom and her concern for other people never wavered.

I will always remember Harumi as a treasured friend and a wise mentor.

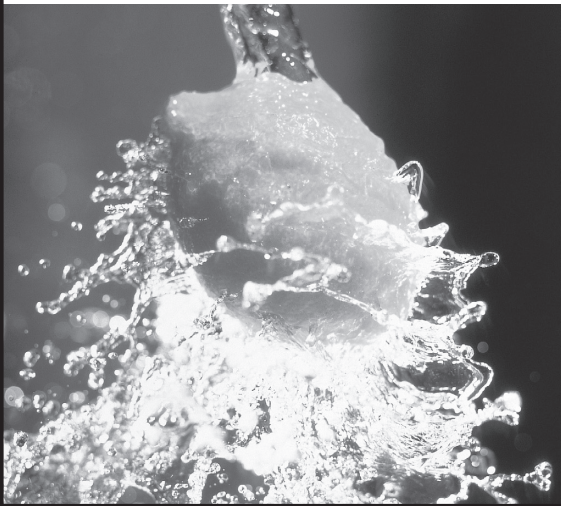
We will all mourn a truly remarkable colleague and friend.

Margaret Maxwell

アルカリ化療剤—酸性尿・アシドーシス改善—  
 処方せん医薬品<sup>注)</sup> 注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

# ウラルリット®・U・錠

〈クエン酸カリウム・クエン酸ナトリウム配合製剤〉



●効能又は効果、用法及び用量、使用上の注意等は製品の添付文書をご参照ください。



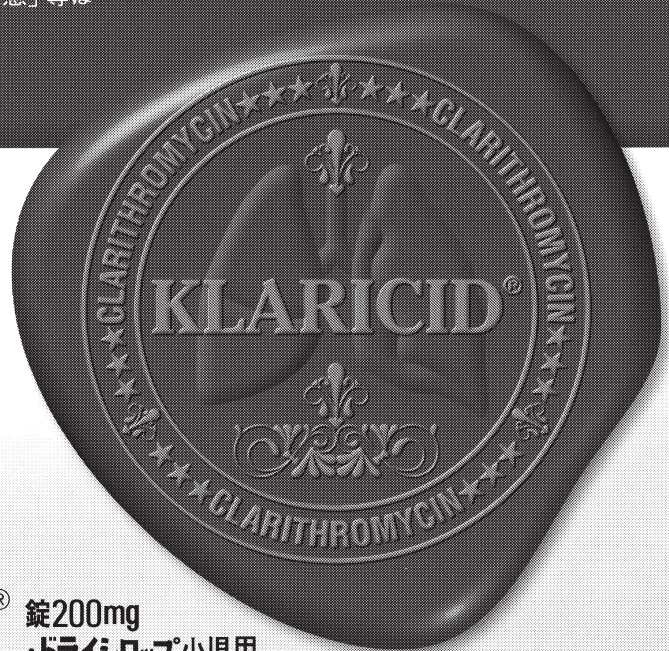
製造販売元(資料請求先)  
 **日本ケミファ株式会社**  
 〒101-0032 東京都千代田区岩本町2丁目2番3号



提携 マダウス社(ドイツ)

H17-4

★「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等は製品添付文書をご参照下さい。



マクロライド系抗生物質製剤  
 指定医薬品  
 要指示医薬品<sup>注)</sup> **クラリシッド®** 錠200mg  
 ・ドライシロップ小児用  
 錠50mg小児用  
 〈クラリスロマイシン錠 シロップ用クラリスロマイシン〉 **KLARICID®** (略号:CAM) 薬価基準収載

注)注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

2004年12月作成

製造元  
 **アボット ジャパン株式会社**  
 本社 東京都港区六本木1-9-9  
 医薬品事業部本社 大阪市中央区城見2-2-53

販売元  
 **大日本製薬株式会社**  
 大阪市中央区道徳町2-6-8

技術提携:大正製薬株式会社  
 資料請求先:アボット ジャパン株式会社  
 くすり相談室 TEL(06)6942-2065

## 社団法人日本女医会 定時総会議事録

日時 平成 17 年 5 月 21 (土)  
場所 ウエスティンナゴヤキャッスル  
(愛知県名古屋市中区栄 3-19)  
午後 1 時 00 分開会  
司会 角田由美子

社団法人日本女医会総会開催に際し  

|       |         |
|-------|---------|
| 会員数   | 1,878 名 |
| 出席数   | 124 名   |
| 記名委任数 | 520 名   |
| 白紙委任数 | 216 名   |

 以上のとおり日本女医会定款第 27 条の定足数 376 名に達し、総会が成立する旨の報告あり、開会を宣す。

**会長挨拶** 橋本葉子  
**物故者への黙祷**

平成 16 年度物故会員に黙祷

**報告**

1. 会務および事業報告 鹿田儀子  
配布済みの資料にもとづき報告
2. 平成 16 年度特別会計報告 森川由紀子  
吉岡弥生賞基金会計  
国際女医会議記念事業基金会計  
以上について配布済みの資料にもとづき報告
3. ナショナルコーディネーター報告 内湯安子  
以上、原案どおり承認

橋本会長より平敷理事が次期国際女医会・会長に選出された旨報告があった。

**議長団選出** 秋葉則子、細川美智子 [議長団、議長団席に着席]

**議事録署名人名選出**  
中山年子、渡部光子

**議事**

- 第 1 号議案**
- 1) 平成 16 年度一般会計収支計算書案 (案) 濱田啓子  
配布済みの資料に基づき報告 ▲原案どおり可決
  - 2) 剰余金処分案 濱田啓子  
▲次期会計へ繰り越すことを原案どおり可決

会計監査報告 川田喜代子  
▲監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告、承認される  
**第 2 号議案** 加藤笹子

**平成 17 年度事業計画案**

- 庶務部**  
 会員増加推進  
 吉岡弥生賞の募集  
 ブロック別懇談会の開催
- 学術部**  
 研究助成  
 学術講演研修会を年数回開催
- 事業部**  
 全国公募による公開講演会の援助  
 荻野吟子賞、地域功労賞の決定と授与  
 地域医療奉仕活動への助成  
 社会保険新報社への原稿協力：月刊『いきいき』に健康記事掲載  
 講習会等の事業実施  
 災害、緊急時行動

- バザー、親睦活動による事業  
**渉外部**  
 国内各団体との交流  
 国際交流  
 国連 NGO 国内婦人委員会として活動  
 厚生労働省「健やか親子 21 推進協議会」の協力団体として活動  
 女性の異業種団体との交流  
 その他
- 広報部**  
 機関紙の発行  
 ホームページの更新と活用
- 子育て支援委員会**  
 独立行政法人・福祉医療機構より助成を受け「働く女性のための育児環境整備支援事業」を継続  
 「十代の性と健康」指導者養成講座を 1 回開催予定  
 ▲以上、原案どおり可決

**第 3 号議案** 船越由美子  
平成 17 年度一般会計収支予算案 ▲原案どおり可決

**第 4 号議案** 鹿田儀子  
役員の任期及び選挙の方法の件  
別紙配布資料に基づき検討  
▲任期及び立候補時の定年制について討議したが、多数決で可決  
選挙の方法については理事会に一任で可決

**第 5 号議案** 橋本葉子  
次期及び次々期開催地に関する報告  
▲次期開催地は東京都、次々期開催地は神奈川県で承認

**表彰**

- 1) 吉岡弥生賞授与者 高原照美、津田喬子、野澤良美
- 2) 学術研究助成金授与者 平井みさ子

**閉会の辞** 石原幸子

## 社団法人日本女医会 定時評議員会議事録

日時 平成 17 年 5 月 21 (土)  
場所 ウエスティンナゴヤキャッスル  
(愛知県名古屋市中区栄 3-19)  
午前 10 時 00 分開会  
司会 渋谷きよみ

社団法人日本女医会評議員会開催に際し  

|       |      |
|-------|------|
| 評議員数  | 98 名 |
| 出席数   | 45 名 |
| 記名委任数 | 23 名 |
| 白紙委任数 | 5 名  |

 以上のとおり日本女医会定款第 27 条の定足数 20 名に達し、総会が成立する旨の報告あり、開会を宣す。

**会長挨拶** 橋本葉子

- 報告**
1. 会務および事業報告 石原幸子  
配布済みの資料にもとづき報告
  2. 平成 16 年度特別会計報告 森川由紀子  
吉岡弥生賞基金会計

国際女医会議記念事業基金会計  
以上について配布済みの資料にもとづき報告

3. ナショナルコーディネーター報告 内潟安子  
埼玉県から依頼された「荻野吟子賞の名称使用」について質問があった。会長よりお断りを書面にて提出しているとの報告がある。「商標登録」も視野に入れ、今後理事会で再検討する。

#### 議長選出

大竹輝子 [議長、議長席に着席]

#### 議事録署名人名選出

中原千恵子、永野薫

#### 議事

##### 第1号議案

- 1) 平成16年度一般会計収支計算書案(案) 濱田啓子  
▲配布済みの資料にもとづき報告原案どおり可決  
2) 剰余金処分案 濱田啓子  
▲次期会計へ繰り越すことを原案どおり可決

会計監査報告 橋川ふさ子  
▲監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告、承認される

##### 第2号議案

鹿田儀子

#### 平成17年度事業計画案

##### 庶務部

会員増加推進  
吉岡弥生賞の募集  
ブロック別懇談会の開催

##### 学術部

研究助成  
学術講演研修会を年数回開催

##### 事業部

全国公募による公開講演会の援助  
荻野吟子賞、地域功労賞の決定と授与  
地域医療奉仕活動への助成  
社会保険新報社への原稿協力：月刊『いきいき』に健康記事掲載

講習会等の事業実施

災害、緊急時行動

バザー、親睦活動による事業

##### 渉外部

国内各団体との交流  
国際交流  
国連 NGO 国内婦人委員会として活動  
厚生労働省「健やか親子21推進協議会」の協力団体として活動  
女性の異業種団体との交流  
その他

##### 広報部

機関紙の発行  
ホームページの更新と活用

##### 子育て支援委員会

独立行政法人・福祉医療機構より助成を受け「働く女性のための育児環境整備支援事業」を継続  
「十代の性と健康」指導者養成講座を1回開催予定  
▲以上原案どおり可決

##### 第3号議案

平成17年度一般会計収支予算案 船越由美子  
▲原案どおり可決

##### 第4号議案

役員任期及び選挙の方法の件 鹿田儀子  
▲別紙配付資料に基づき検討、承認される

##### 第5号議案

次期及び次々期開催地に関する件 橋本葉子  
▲次期開催地は東京都、次々期開催地は神奈川県との報告

日本女医会の各支部と県女医会の在り方を討議されたが、それぞれの立場を踏まえ今後の検討事項とした。

#### 閉会の辞

加藤竺子

#### 「荻野吟子賞」の名称について

埼玉県から依頼のありました「荻野吟子賞」の名称使用について評議員会で討議されましたが、その後理事会では次のように決定致しました。  
今後日本女医会の各賞は、全て「日本女医会」を頭につけてそれぞれ「日本女医会吉岡弥生賞」、「日本女医会荻野吟子賞」、「日本女医会学術研究助成」「日本女医会地域医療奉仕活動に対する助成」とする。

## (((理事会議事録)))

日時：平成17年2月26日(土) 午後3時00分

場所：(社)日本女医会会議室

出席者：橋本、石原、鹿田、加藤、内潟、大坪、澤口、澁谷、角田、中山、平敷、濱田、松井、村田、森川、山崎(ト)、山崎(康)(以上17名)

欠席者：古賀、斎藤、船越、山本(纈)、山本(詩)、川田、橋川(以上7名)

#### 議題

- 平成17年度事業計画案および予算案  
・公開講演会とブロック別懇談会の旅費について
- 第50回定時総会の件
- 第8回国際女医会西太平洋地域会議
- その他  
・個人情報  
・埼玉県からの依頼

1月理事会議事録を承認

#### 報告事項

- 庶務報告 角田理事  
別紙どおり報告、承認される
- 会計報告 濱田理事  
平成17年1月分収支別紙どおり報告、承認される
- 各部報告  
【事業部】 山崎(ト)理事  
・1月23日長野市での市民公開講座「十代の性と健康 - 十代の生と性と死 - を考える」参加の報告  
【渉外部】 松井理事  
・1月31日、男女共同参画推進連携会議主催「『北京行動綱領及び女性2000年会議成果文書に関する実施状況の評価』等(北京+10主要議題)に関する情報・意見交換会」に出席の報告  
・自由民主党主催「各種団体との新春懇親会」に中山理事と出席の報告

#### 【広報部】

山崎(康)理事  
・会誌181号は1月末に発送済み。会誌182号原稿を募集中  
・『日本女医会誌百年史』と『世界最初の女性医師～エリザベス・ブラックウェル～』の在庫が多数あるので購買の協力依頼

#### 【平敷理事より】

- 国際女医会を代表してCSW(国連女性の地位委員会)に出席のため2月27日よりニューヨークを訪問
- 国連NGO国内婦人委員会主催、外務省からの委託事業で行われた「第15回日本・中東女性交流」は日本汎太平洋東南アジア婦人協会担当で開催されたが、詳細は会誌にて報告の予定

**協議事項**

1. 平成17年度事業計画案および予算案  
 会員高齢化による会費収入減少、低い金利等による減収は必至である。  
 厳しい状況の下、各部で儉約した予算案を改めて次回理事会に再提出する。  
 ・公開講演会とブロック別懇談会の旅費について  
 ①理事会の旅費はどこを起点として計算するか、新しい旅費規程を作成する。  
 ②「事業部・公開講座」、「庶務部・ブロック別懇談会」の旅費  
 担当部のみ旅費を支払う（全員又は一人）、出席者全員に距離は関係なくある程度支払う等の意見が出されたが、次回理事会にて再検討。
2. 第50回定時総会の件  
 ・2月24日現在、申し込みは43名。愛知万博は個人で予約可能。  
 ・ワークショップの人は各地区ごとに代表者を選出したいので、参加申込締切り後に決定する。  
 ・「選挙の方法」について、簡単に公正性があり、かつ費用のかからない方法を検討した。従来通り行うが、誤解の生じないようにする。
3. 第8回国際女医会西太平洋地域会議の件  
 2005年11月10～12日まで、フィリピン・マニラ、マニラホテルで「Golden Health Care Towards the Silvering Years」をテーマに開催。旅行社に「参加ツアー」を依頼するか検討したが、内潟理事に一任する。
4. その他  
 ・個人情報  
 4月から「個人情報保護条例」が施行され、女医会としては「会員名簿」の取り扱い方について検討。名簿に連番を付け、但し書きを入れるなど、会員の個人情報の流出防止に努める。  
 ・埼玉県からの依頼  
 埼玉県男女共同推進課より、「県内の男女共同参画社会推進に功績のあった人に与える賞に『荻野吟子賞』の名称を使用したい」旨、打診があった。女医会として歴史のある賞なので『荻野吟子賞』としての使用には反対であるが、「荻野吟子」の個人名の使用は反対できないので、その旨返事をする。特許申請も考える。  
 ・ブロック別懇談会について  
 3月6日京都で開催のブロック別懇談会参加者に対して確認を取る。  
 ・大坪理事より2月25日に日本医師会女性懇談会に出席の報告。  
 7月30日（土）、男女共同参画フォーラム「女性医師が何を求め、何を求められているか」を開催予定。

以上

**日時：** 平成17年3月12日（土）午後3時00分  
**場所：** 社日本女医会会議室  
**出席者：** 石原、加藤、鹿田、内潟、大坪、古賀、澤口、角田、中山、船越、濱田、松井、村田、森川、山崎（ト）、山本（續）、山本（蒔）（以上17名）  
**欠席者：** 橋本、斎藤、澁谷、平敷、山崎（康）、川田、橋川（以上7名）

**議題**

1. 定時評議員会、定時総会の件
2. 平成17年度事業計画案および予算案の件
3. その他

2月理事会議事録を承認

**報告事項**

1. 庶務報告 古賀理事  
 別紙どおり報告、承認される
2. 会計報告 船越理事  
 平成17年2月分収支別紙どおり報告、承認される
3. 各部報告  
**【庶務部】** 古賀理事  
 3月6日京都で開催された「ブロック別懇談会」の報告。京都支部より13名、近隣支部より2名、会員外の方が6名、本部より14名、合計35名の出席。女医会の存在の分かる広報、国際女医会議参加への呼びかけ、女性医師の視点からの育児支援と高齢化の問題を事業内容に組み入れる、若い先生の会費を安くすると良いのではとの意見も出された。和やかな雰囲気では進行されたが、討論の時間が少なく残念であった
- 【事業部】** 山崎（ト）理事  
 『いきいき』への原稿執筆依頼が来ている。支部長に依頼し、それから各支部会員に投稿してもらう。国際女医会議の集合写真、ビデオ、DVDの購買協力の要請
- 【渉外部より】** 澤口理事  
 自民党女性局から「結婚・出産・子育てに関するアンケート」の依頼。該当の理事に配布
- 【広報部】** 山本（蒔）理事  
 会誌182号の原稿を募集中。引き続き『日本女医会誌百年史』と『世界最初の女性医師～エリザベス・ブラックウェル～』の購買協力の要請
- 【学術部より】** 山本（續）理事  
 9月か10月に「睡眠障害」についての学術講演の開催を予定。他に希望の場合、5月中に申し出る事。睡眠障害の場合は「小児の睡眠障害」も、また「再生医療」の希望もあった

**協議事項**

1. 定時評議員会、定時総会の件  
 議題と報告事項と発表者を決定する。  
 会計：評議員会・総会とも特別会計＝森川、決算＝濱田、予算＝船越、庶務：評議員司会＝澁谷、総会司会＝角田  
 副会長：評議員会事業報告＝石原、事業計画＝鹿田、閉会の辞＝加藤  
 副会長：総会事業報告＝鹿田、事業計画＝加藤、閉会の辞＝石原
- ・次々期総会は大阪支部に開催を依頼する。
2. 平成17年度事業計画案および予算案の件  
 ・例年より剰余金が120万円程、会費収入が80万円程減り、合計200万円位、繰越金が少なくなる見込み。来年度予算へ預金から200万円の取り崩しを承認する。できるだけ節約を要請
3. その他  
 ・論文の費用負担について  
 昨年度行った「卒後11～15年目医師の労働実態に関する調査結果報告」を英国の「Occupational medicine」に投稿したく、翻訳料の一部を負担して欲しい旨要請があった。財政困難の折、個人的な要素も多いので却下
- ・吉岡彌生記念館より「特別企画『健康とストレス展』3回シリーズ」への名義だけの後援依頼があり、承認する
- ・大坪理事より「会誌への広告」へ協力依頼
- ・女医会の財源について話し合う。  
 若い会員の増強のため、①卒度5年間8千円にする、②賛助会員を増やす、等の意見が出された
- ・ブロック別懇談会の反省  
 ブロック別懇談会に出席された支部の先生たちの貴重な意見を必ず次の理事会で検討するようにする

以上



**日時：** 平成17年4月23日（土） 午後3時00分

**場所：** ㈱日本女医会会議室

**出席者：** 橋本、石原、加藤、鹿田、大坪、古賀、斎藤、澤口、角田、平敷、濱田、森川、山崎（ト）、山崎（康）、山本（蒔）、橋川（以上16名）

**欠席者：** 内潟、澁谷、中山、船越、松井、村田、山本（纈）、川田（以上8名）

**議題**

1. 第50回定時総会の件（資料1）
2. 2004年国際女医会議会計の最終報告—印刷代を含む—（資料2）
3. 本部口の決算・予算の件（資料3）
4. その他（資料4）

3月理事会議事録を承認

**報告事項**

1. 庶務報告 角田理事  
別紙どおり報告、承認される
2. 会計報告 濱田理事  
平成17年3月分収支別紙どおり報告、承認される
3. 各部報告  
【広報部】 山崎（康）理事  
会誌182号の広報部会を4月16日に開催。4月25日に発行予定  
【渉外部】 澤口理事  
国際人権規約完全実施促進連絡会、資料の説明

**協議事項**

1. 第50回定時総会の件
  - ・先月理事会で決定した「評議員会、総会議事進行表」を再確認。時間厳守の事
  - ・役員任期について  
11月20日に開催された小委員会で決定された「役員任期に関する定款施行規則改正（案）」（別紙1）を評議員会・総会に提出することを承認
  - ・選挙の方法  
小委員会では従来通りの方法で検討したが、角田理事より、会長は必ずしも理事の中から選出しなくともいいのではという意見が出された。今回は小委員会で提案された「定款施行規則改正（案）」のみ提出し、何か不都合が出た場合に再検討する事を承諾。この件は鹿田副会長が担当。

・ワークショップについて

- 前日(20日)平敷理事の講演会后、17時よりワークショップ「女医会の現状より未来を考える」をテーマに開催。参加者を5つのグループに分けて約20分討論してもらう。リーダー候補の5人を選び、依頼状を送付。総合司会は古賀理事。限られた時間内に可能な限り参加者の意見を伺えるように努力する。
2. 2004年国際女医会議会計の最終報告—印刷代を含む—  
・別紙、最終国際女医会議会計収支（案）を承認。
  3. 本部口の決算・予算の件  
・森川理事より会務報告に記載されてある「特別会計」、「平成16年度一般会計収支計算書」、「平成17年度一般会計収支計算書（案）」の詳細な説明があった。  
・税理士の長嶋先生より、ペイオフ対策で「1千万円以上の預金」を「決算預金」に変更した方がよいとの助言があり、早速実行する。
  4. その他
    - ・依頼と問い合わせ  
①特定非営利活動法人「新潟国際ボランティアセンター」より「ユニフェム日本国内委員会」へ加入の希望があり、承認  
②医師会より「第1回男女共同参画フォーラム」開催の案内があった。各地区医師会より連絡があると思うが、協力する  
③「性と健康を考える女性専門家の会」より総会シンポジウム後援の依頼があり、承認  
④アイスランド女医会より「国際女医会北欧州地域会議」の宣伝用葉書を制作したので無料配布したいとお知らせがあり、総会に間にあうなら送付してもらう
    - ・大坪理事より、グルジアで開催される「国際女医会議中央欧州地域会議」に参加の勧誘があったので、希望者は大坪理事に連絡の事
    - ・橋本会長より元国際女医会会長小野春生先生が他界された旨の報告
    - ・次々年度総会は神奈川支部が開催を承諾
    - ・斎藤理事より、独立行政法人福祉医療機構より「働く女性のための育児環境整備支援事業」への継続内定の報告あり
    - ・山本（蒔）理事より、3月26日開催された公開講演会、「女性のための紫外線対策」の報告。また同理事は5月20日に仙台で開催される「日本生理学会・男女共同参画シンポジウム～女性医師の働く環境」について講演する。
    - ・鹿田副会長より、「評議員会・総会で議案が承認されたら、理事は立って出席の皆様挨拶する」事を再確認した。
- 以上

**会員動静** (2005年3月12日現在)

**入 会**

|       |         |         |
|-------|---------|---------|
| 安藤由紀子 | (昭61年卒) | 宮 城     |
| 鈴木カツ子 | (昭45年卒) | 宮 城     |
| 小西 明美 | (昭52年卒) | 千 葉     |
| 柴田 美香 | (平元年卒)  | 板 橋     |
| 宮崎 明子 | (昭63年卒) | 江 東     |
| 清水 彩子 | (平12年卒) | 世 田 谷   |
| 脇坂英理子 | (平15年卒) | 東 女 学 内 |
| 金子佳世子 | (昭54年卒) | 神 奈 川   |
| 高橋こずえ | (昭63年卒) | 神 奈 川   |
| 橋本 廣子 | (昭39年卒) | 神 奈 川   |
| 望月 明子 | (昭54年卒) | 神 奈 川   |
| 井上かがね | (昭51年卒) | 愛 知     |
| 東浦 享子 | (昭34年卒) | 愛 知     |
| 小林 織絵 | (平9年卒)  | 長 野     |

|       |         |     |
|-------|---------|-----|
| 長谷川京子 | (平10年卒) | 長 野 |
| 仁尾 真実 | (昭54年卒) | 京 都 |
| 佐々はつ子 | (昭34年卒) | 京 都 |
| 水野 恵  | (平2年卒)  | 京 都 |
| 森本 博子 | (昭50年卒) | 京 都 |
| 山本ゆき子 | (昭51年卒) | 京 都 |
| 竹尾 直子 | (平6年卒)  | 大 分 |

**退 会 31 名**

|       |         |         |
|-------|---------|---------|
| 一戸 茂子 | (昭25年卒) | 北 海 道   |
| 藤森 桂子 | (昭17年卒) | 杉 並     |
| 小野 春生 | (昭22年卒) | 目 黒     |
| 久保田くら | (昭14年卒) | 東 女 医 内 |
| 鎌田 小夜 | (昭20年卒) | 徳 島     |

## 吉岡弥生賞 推せんについて

平成17年「吉岡弥生賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。

締め切り期日は、平成17年12月25日までに願います。なお、次の書類を添えて、ご推せんをお願いします。

1. 自筆履歴書
2. 業績
  - イ) 医学に貢献した現会員。
  - ロ) 社会に貢献した現会員。
3. 推せん理由

## 荻野吟子賞 推せんについて

平成17年「荻野吟子賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。会員・非会員を問いません。おもに地域医療に貢献された方を対象としています。

締め切り期日は、平成17年12月25日、候補者の経歴、業績と推せんの理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもって提出してください。

## 地域医療奉仕活動に対する 助成のご案内

平成17年「地域医療奉仕活動」に対し助成を致しますのでご案内申し上げます。

各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行っている日本女医会会員を主体とするグループを対象と致します。応募の締め切りは、平成17年12月25日、申請書は事務局にありますのでお問い合わせください。

(社) 日本女医会 事業部

## 第27回 学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行っております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請くださるようお願いいたします。

### 1. 助成の趣旨

医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

### 2. 助成金額

1件 30～50万円 (3件)

### 3. 申込手続

- (1) 応募資格  
入会継続3年以上経過した

日本女医会会員で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)

### (2) 助成期間

1年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、3年以上の間隔を置く。

### (3) 応募方法

本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。

1通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)

### (4) 締切期日

平成17年12月25日必着

### (5) 選考および発表方法

選考委員会において選考の

上、平成18年2月開催の日本女医会理事会において決定し、申請者宛通知する。

### (6) 助成金の贈呈

平成18年5月開催の日本女医会総会の席上。

### (7) 受賞者の本会に対する義務

平成19年3月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙3枚)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。

### (8) 送り先

日本女医会  
〒150-0002  
東京都渋谷区渋谷2-8-7  
☎ 03-3498-0571

## 編集後記

愛知県で開催された第50回日本女医会総会は、前夜祭・総会・講演会・懇親会と手順良く行われ、参加された会員は皆心満ち足りた表情で会場をあとにしていた。

会誌にも記事が寄せられているが、翌日のオプションツアーに至るまで、愛知支部会員の気配りが感じられた総会だった。吉岡弥生賞を今回受賞なされた野澤良美先生は、今、日本女医会が取り組んでいる病児保育を15年間も続けられた素晴らしい会員である。自分のためでなく、他人のために困難な道を歩むことの貴さをしっかり教えていただいた。他の受賞者の業績も立派なものであり、そのような方たちに賞をさし上げられる日本女医会会員であることの幸せを感じた。(山崎康子)

## 日本女医会誌

復刊第183号 2005年7月25日発行  
編集人 大坪公子  
発行人 橋本葉子  
制作 あづま堂印刷

発行所 社団法人 日本女医会  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル  
TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769  
http://www.jmwa.or.jp  
e-mail address: office@jmwa.or.jp